

2026年1月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 1月えんだより

1月の聖句 「イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人ともに愛された。」

ルカによる福音書2章52節

新年、あけましておめでとうございます。昨年末は季節外れの暖かい日があったかと思うと、翌日には厳しい寒さで震える日が…。春はぼかぼかと温かく、夏は厳しい暑さ。秋は清々しい空気のもとで過ごしやすく、冬は徐々に厳しい寒さが訪れるというのが、この国の四季の移り変わりであったように思いますが、この移り変わりの常識が大きく変わりつつあります。私たち、そして、何より子どもたちの未来の季節感がこれ以上崩れてしまわないように願いたいと思います。

以前、何かの機会にお話したことがあるかと思いますが、元気だった我が家の愛犬と近くの小学校のそばを散歩で通りがかった時に「何回言うたらわかるんや！」という怒鳴り声が聞こえました。「何事？」と思って声の方を見てみると、ベースランニングの練習をしている小学校低学年の少年に、コーチが向かって叫んでいました。その少年は顔を引きつらせながら、また、ホームベースからのランニングをやり直していました。コーチは「少しでもうまくなって、レギュラーとして活躍できるように。」と愛情を持っていたのだと思いますが、この時の少年の引きつった表情からは「愛情」を感じているようには思えませんでした。中学校時代に剣道部に所属していた我が子たち。兄と妹、二人に剣道の業を指導して下さったのは「おじいちゃん指導者」でした。この「おじいちゃん」のもとで指導を受けていた二人は徐々に実力をつけていき、それぞれ3年間という短い間でしたが、二人とも3年間で剣道初段をとるまでに上達しました。兄が10数年ぶりに剣道を再開したこともあってか、先日も兄妹でこの「おじいちゃん」を懐かしんで話をしていました。「おじいちゃん指導者がいてくれてよかった。」と。

顔を引きつらせながら練習をしていた野球少年。「おじいちゃん指導者がいてくれてよかった。」と話をしている兄妹。それぞれが、野球や剣道の指導者になった時、どのような指導をするのでしょうか。野球や剣道に限らず、人は「自分がされて来た、経験してきた経験、体験」を基に行動するようになるのではないかと思います。

全ての人々に大きな愛を与えてくださる神様の御子として、私たちのもとに人としてお生まれになったイエス様は、神様、両親、また周りの多くの人々の愛の中で育ちました。そして、私たちの救い主として、神様、隣人、自分自身を愛することを身をもって教えてくださいました。クリスマス会の後、子どもたちから聞かれた「お家の人に見てもらってうれしかった！」という言葉。この言葉の中には、子どもたちひとりひとりに注がれているお家の方々の「愛」が詰まっているように感じます。イエス様が神と人ともに愛されたように、新しい年も、子どもたちが神様と多くの人々に愛されていることを感じられる歩みを守っていきたいと思います。

1月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	いっしょ	じっくりと/広がる
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神さまに守られていることを感じ、安心して過ごす。</li> <li>・友だちや保育者と一緒にいることを喜び、関わろうとする。</li> <li>・冬の自然を感じながら体を使って楽しく遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマスにお生まれになったイエスさまを身近に感じながら聖書のお話を聞く。</li> <li>・伝承遊びや季節の遊びなどを通して、友だちとじっくり過ごすことを楽しむ。</li> <li>・吐く息の白さ、空気の冷たさ、霜・氷・雪・木々の冬芽などから冬を五感で感じる。</li> </ul>
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌50	「神様がわかるでしょ」 友よ歌おう4